

日銀マンのIT企業見聞録

第8回

情報洪水のなかで

日立製作所 情報・通信システム社
スマート情報システム統括本部
ビジネスイノベーション本部担当本部長

岩下 直行

84年日本銀行入行。日銀金融研究所で金融分野における情報セキュリティ技術研究に従事し、同研究所・情報技術研究センター長、下関支店長を歴任後、現在は日立製作所に出向中。

日銀で勤務していたころは、回覧物の処理にかなりの時間を割いていた。机上には未決・既決と書かれたボックスがおかれ、社内文書が流れている。未決ボックスのなかには、部下から上がってきたレポートや、庶務的な通知類、雑誌や新聞の切抜きなどが混在している。決裁証跡を残すために、あえて紙媒体で回覧しているものも多い。気を抜いているとすぐに回覧物がたまってしまうので、次々に読んでは既決ボックスに移していく。そうやって常に情報をアップデートしておくことが大切だと、若いころから教えられてきた。日立に出向してきてちよつと戸惑

ったのは、机上に回覧物を入れるボックスがなかったことだ。連絡事項は電子メールで知らされるのが基本だが、社内のイントラネットで初めて知らされる情報も多い。新聞や雑誌は回覧されないから、もし必要ならネット検索して情報を入手することになる。自らが能動的に情報をとりにいかないといけない。最初は少し不安に感じたが、イントラネットでの検索の要領を理解し、社内SNSで交わされるQ&Aを参照するようになると、これはこれでよい方法だと思ふようになった。なにより、自分の仕事のペースにあわせて、情報をインプットするかもしれないかを決められることはありがたい。その反面、ちよつと気を抜くと情報過疎に陥ってしまうおそれがある。動きの激しいITの世界を相手にしていればなおさらだ。

そこで、いくつかのルールを自分に課すことにした。毎朝みるネット上のサイトを決めておき、どんなに忙しくても必ず巡回してチェックする。個人が運営する専門分野のブックマークをまとめたサイトが中心だ。通勤途上にスマホでチェックするツイッターも貴重な情報源となる。そこで仕事に有用と思われる情

報をみつけたら、要点を整理して職場の同僚にメールで知らせておく。それが自分自身の備忘録にもなる。とはいえ、ネットにあふれる情報は膨大で、日々増え続けている。自分の関心分野に限ったとしても、読みたい資料のすべてを読むことはとてもできない。本当に必要な情報はどう選択するか悩むことになる。

ソーシャルメディアの分析で名高いクレイ・シャキーは、「情報洪水などない。それは情報選別の失敗だ」と喝破した。インターネットやソーシャルメディア以前の世界でも、人々は日々の営みのなかで多くの情報を生み出していた。変わったのは、その選別の担い手だ。以前は出版社や新聞社が選別した情報だけが活字となった。現代は、情報が選別なしに発信される。その分、情報を選別する責任は受け手に移った。

情報洪水とは、この受け手の情報選別スキルの低さという問題なのだ。情報選別の悩みは現代人に共通の課題といえるだろう。筆者は毎朝、スキルを磨く貴重な経験だと思いがら、情報の選別に励んでいる。

※本稿は筆者の個人的見解であり、所属企業そのほかとはいっさい関係がない。